



令和元年、 新しい歴史の幕開けです。 代表 熊澤 正博

昨年は新体制のもと、実践研修・ガイドマナー研修などガイド力のアップに傾注しました。またJR東海の2018年秋キャンペーン「そうだ 京都、行こう。」酬恩庵一休寺編では、これまでにないほどの多くの方々が京田辺を訪れ、ガイドとして協力させていただいた我々もいままでにない経験をしました。

令和元年、新たに11名のボランティアガイドを迎え、人数的にも質的にも一層ガイド力を高めることができるようになったと確信しています。

我々の企画するツアーは、ウォーキングを楽しむ方、歴史・体験に興味のある方、それぞれに、ご満足頂けるよう更に推進していきます。また、



個人または団体からのガイド申し込みが、前年の倍以上になりましたが、こちらの皆様のご期待にも、精一杯お答えしたいと思っています。東京オリンピックのインバウンド需要もあるかもしれません。

今年度も全員一丸となって、京田辺市、(一社)観光協会とも連携を深め、「来てよかった。また来てみたい!」と、京田辺ファンになっていただけるような楽しいガイドを目指します。

京田辺の祭りと神事

瑞饋神輿 (ずいきみこし)

天香古山命 (あまのかごやまのみこと) を祀る棚倉孫神社の祭礼で製作・巡行される瑞饋神輿は神に五穀豊穡を感謝する神事として継承されています。

屋根を葺く芋莖 (ずいき) や側面の胴板にびっしりと張られる豆類をはじめ、秋に収穫される26種類ほどの野菜や穀類などで飾られる神輿です。江戸時代、淀城主 石川憲之が、こちらの神社に石鳥居等を寄進したことに村人たちが喜び、瑞饋神輿を造り、祀ったことが始まりと伝えられています。



昭和4年 (1929) で中断していましたが、昭和50年 (1975) に一部の模型を製作。昭和53年2月に「瑞饋神輿保存会」を結成しました。同年10月田辺町(現・京田辺市)無形民族文化財に指定され、10月10日に田辺区域内を巡行しました。

現在、瑞饋神輿は二基あり、大人用は隔年、子供用は毎年製作しています。保存会の皆さんにより秋に収穫される野菜や穀物などで、1ヶ月ほど前から準備して神輿の飾り付けを行い、10月の「体育の日」の午後1時から田辺区域を巡行しています。

この飾り付けは根気のいる大変な作業ですが、神々しい立派な神輿が出来上がります。今年は神輿巡行の年に当たっており、令和元年にふさわしく見事な瑞饋神輿が造られ巡行されると思います。10月14日 (月・祝) には緻密で見事な神輿の飾り物を間近に拝見してください。

(望月)

ガイド日誌



京田辺ふれあいハイク 3月20日 「早春のけいはんな三国越えウォーク」

京田辺のシンボル甘南備山の南方には標高300m級の山々が連なり、奈良・大阪と背中合わせになるところから「京田辺アルプス」と私は勝手に呼んでいます。京田辺最高峰となる高船の千鉾山は標高311m、これは北アルプス涸沢岳(3110m)の丁度10分の1で、同じく第2位天王の高ヶ峯305mも南アルプス農鳥岳(3051m)の10分の1です。このアルプス越えとも言える三国越えを一気に体験し、大阪府民の森くろんど園地での珍しいラクウショウの群生地鑑賞が本コースの真骨頂でした。

実はこのコースは4年前に私が初めて手がけたニュー企画なのです。平成28・29年度は11月企画でしたが残念ながら2回とも雨天中止。時期を変えて実施した平成30年度は天気恵まれ、また運よくミスバショウの花にも出会え、お客様にも喜んでいただけて、やっと4年越しの肩の荷が下りました。(古野)



京田辺ひとやすみフェスティバル 4月13日 「花見ウォーク」

京田辺のひとやすみフェスティバルの一環として、ガイドと一緒に桜や野に咲く草木をゆっくり鑑賞する花見ウォークが開催されました。観光協会の方々が駅ナカ前で忙しく受付をされるなか、京都市内から来られたお客様が京都新聞に掲載された観音寺の菜の花畑の写真を見せてくれて「是非見たいと思って申し込みました」と話してくれました。

この日は快晴で爽やかな天候に恵まれ、足取りも軽く出発しました。第1ビューポイントである馬坂川の橋の袂で、川筋に沿って北に延びる圧巻の桜並木を見たときには、皆さんから思わず歓声が上がっていました。まさしく一目千本を想わせる眺めです。

防賀川沿いの樹木には、事前に我々が番号の木札をつけておきましたが、それらをお客様と丁々発止の掛け合いをしながら楽しんで頂きました。締めとして観音寺の菜の花畑の絶景を味わって頂きました。この日、お客様には喜んで頂けたものと思います。当初100名の予定が120名の参加となりました。来年もかくありなんと願うばかりです。(三枝)

お茶の京都DMO 4月13日 「神君家康の伊賀超えの道 京田辺の足跡を楽しむ編」

このイベントは、京都府のお茶の京都DMOの主催で、南山城地域の活性化のため、1市2町(京田辺市・井手町・宇治田原町)にまたがるものでした。4月13日に行った京田辺編は、枚方の尊延寺から、甘南備山を経て観音寺を通過し、穴山梅雪の墓に行き、草内の渡しに至るルートでした。当日はお天気にも恵まれ、特に甘南備山のふもとを歩くルートは、いかにも神君家康が通過したと思える臨場感あふれる道で、参加されたお客様は、非常に感激されていたようです。また京田辺の地元野菜を中心とした地産地消のお弁当を提供させていただき、お客様には大変好評でした。来年のNHKの大河ドラマが明智光秀なので、穴山梅雪の墓には当然多くの方が訪れると思います。今後京田辺市以外の人々にも来ていただくため、このルートを京田辺市の活性化に使えたらと考えております。(田原)



7月7日(日)

「青葉の法華寺で写経体験」

～仲夏の静寂の中

写経を通して無心になってみませんか～



法華寺は、元は大日堂盛行庵という喜見院日便上人洛中の名刹 曇華院よりこの地に寺領の分与を受け、寛永11年(1638年)に日蓮宗とし建立されました。現在若い住職の下、様々な催しがあり活気のあるお寺です。

法華寺では、住職よりお話を頂き、心静かに机に向かい写経をいたします。自分の書いた写経はお守りにしてもよし、お寺に奉納されてもよし。そしてお菓子とお抹茶を頂きます。

次は松井の地へと向かいます。松井から八幡市の美濃山一帯にかけて広がる竹林が大変美しい場所として地元の人々に愛されています。ときおり吹く風に揺れる笹の葉ずれを聞きながら歩くと、日常の煩わしさ時間を忘れてしまいます。ここには、古代の遺跡 大住車塚古墳があります。全国的にも珍しい

二基並んだ前方後方墳で、5世紀初頭(古墳時代中期)に作られ、形と大きさが同じで、それぞれ智光寺山(ちこんじやま)古墳、その西側が大住南塚古墳と呼ばれています。昭和49年(1974年)国の史跡に指定されました。

そして古代九州南端に住んでいた隼人一族が1300年前移り住んだと言われる大住地区へ。ここは海彦山彦の伝説を持つ月読神社があり、隼人一族が神としていた月読尊(つきよみのみこと)を祀ったと言われていました。旧大住村の鎮守であり、毎年10月には、隼人舞と言われる神舞が奉納されます。

ゆったりとしたコースで人と人とのふれあいを楽しむ旅の1日。我々ガイドは皆様とのふれあいを楽しみにお待ちしております

(新井)

集合：JR大住駅 午前9:30 解散：JR大住駅 13:00頃 雨天決行

参加費：800円(写経代 500円, 資料代 200円, 保険代100円) 歩程：約6km

第17回 市民参画型講演会

「廃仏毀釈について」

廃仏毀釈とはいったい何なのか?
その時代背景はどうなっていたのか?

その時代の政治的考え方は
どうだったのか?

いろいろな疑問を
細かくお話いただきます。



講師

中江 好喜 先生

京都産業大学
特別上席客員研究員
NPO法人 都草 理事

日時：令和元年9月17日(火)
10:00~12:00(受付9:30~)

場所：京田辺市中央公民館

参加費：200円(資料代)

申し込み：下記へ9/16 17:00まで